

有限会社 赤嶺電研企画
住所：〒311-2221 茨城県鹿嶋市荒野 1393-3
Tel：0299-69-7909 FAX：0299-69-7909

プレスリリース カテゴリー：【ソーラーシェアリング実証成功のご報告：種もみから収穫までソーラーパネルの下で栽培されたお米の稲刈のご報告】

2021 年 9 月 13 日発信

報道関係者各位

種もみから収穫までソーラーパネルの下で栽培されたお米の稲刈のご報告

- ・弊社ソーラーシェアリング製品のアグリフレーム&ソーラーシェアリング発電所での稲作実証成功
- ・種から収穫までソーラーパネルの下で育成されたお米の稲刈りを営農者が 9 月 10 日に実施

弊社有限会社赤嶺電研企画が納入した潮来市のソーラーアグリハウスフレームおよび、同潮来市のソーラーシェアリング発電所にて発電事業者兼営農者 飯田真宏氏 並びに 発電事業者兼営農者 目黒誠一氏により、2021 年 9 月 10 日にて「種から収穫までソーラーパネルの下で栽培されたお米の稲刈が完了した」ことをご報告します。



左から目黒氏、飯田氏

時系列は下記です。

- ・2018 年 12 月 潮来市ソーラーシェアリング発電所納入 稼働
- ・2021 年 1 月 アグリハウスフレーム PV 納入 稼働
- ・2021 年 5 月 アグリハウス内で種からイネ苗育成に成功
- ・2021 年 5 月 潮来市ソーラーシェアリング発電所に作付け
- ・ソーラーシェアリング発電所にて 9 月 10 日に米の収穫に成功

有限会社 赤嶺電研企画は 2021 年 1 月に 潮来の米作農家である目黒誠一氏の自宅作業場所に、約 90KW の太陽光発電を搭載したハウス型フレームを供給いたしました。

そのハウス内で種からイネ苗を育成、そしてその苗を、稼働済みの飯田真宏氏のソーラーシェアリング発電所下の水田に作付け、そして、9月10日に収穫となりました。

結果としては品質・収穫量とも、従来の水田での育成と遜色のないものとなりました。

つまり、種から収穫まで、一貫してパネルの下で育ったお米の収穫となりました。

今後もアグリハウスフレーム PV（イタコメグロ型）ならびに、ソーラーシェアリング事業向け太陽光発電所を設置販売いたします。

そして、営農者の両名様は、この度の実績をもって、このイネ苗並びにコメの作付・育成データについても来年度より計測することにより、ソーラーシェアリング事業用申請営農資料として販売する予定です。

【本システムの販売とその背景について】

脱炭素の取組みの必要性が話題となり、2030年に温室効果ガス46%削減目標引き上げに伴う太陽光発電の重要性の上昇、ソーラー適地の枯渇や、度重なるメガソーラー原因の事故などから、農地で営農をしつつ、上空で太陽光発電を営む、いわゆるソーラーシェアリングの拡大についても注目されています。弊社は常々、営農型太陽光発電について、検証研究を行ってまいりました。

そして先日5月6日のプレスリリース通り、昨年、潮来市の米作農家である目黒誠一様からの提案・計画をいただき、ご自宅作業用地に、太陽光発電システム搭載ハウス型フレームの設置をさせていただくことになりました。

弊社設置の本フレームにお客様側と農業用ハウス建設業者様により、ハウス機能を追加し、本年4月より、イネ苗の育成試作を行い、イネ苗の健全な育成に成功し、飯田氏所有のソーラーシェアリング発電所下の水田に作付けし、見事収穫となりました。

一般的なソーラーシェアリング事業は日陰野菜や日陰植物を中心に、稲作、米作なども一般的に実施されております。

アグリハウス PV のオーナーである目黒様は、イネ苗の作成から行う米作農家様であり、イネ苗作成のために従来型のハウスから本システム型へ移行できないか？を模索、弊社にご相談いただき実証施設を建設することになりました。

稲作用の苗について、種からイネ苗の育成については田植え前に、3週間程度の温度管理・日照管理を行うため、一般的にはハウス内での育成を行う必要があります。

そのため、イネ苗から植生する営農については、1年の間たった、3週間のためにビニールハウスの維持管理を行う必要があります。

ビニールの日照による劣化や、風災害などへの対策など、非常に維持にコストがかかるため、現在ではイネ苗からの育成農家様の数は減る一方という事態になっていました。その状況に一石を投じ、日本の稲作農家を応援したいというのが目黒様の意向です。

そして、市内でソーラーシェアリング発電所営農を営む、飯田氏所有のソーラーシェアリング発電所下の水田にそのイネ苗を作付けし、稲作は種から収穫までソーラーパネル下で行えることを実証することに至りました。米は日本全国で行っているため、広くソーラーシェアリングの可能性を広げていただく

ことになりました。

太陽光発電システム搭載型ハウスならびにソーラーシェアリング発電所で、平時は発電電力を売電または、自家消費等に利用することで、ビニールハウスの維持管理費を削減し、ソーラーシェアリング発電所でさらに収入を安定化させることが可能です。

【本システムの概要として】

・ソーラーアグリフレーム PV について

本システムは、JINKO 社製両面パネルを設置し、合計 272 枚搭載し、約 90KW のパネルを東西配置し、パワーコンディショナーは Huawei 社製の 4.95KWPCS10 台で発電を行います。

弊社の太陽光発電システム付フレームの価格およびお客様によるハウス機能付加費用から試算しますと、同レベルの規模ならば、坪単価 21 万円（耕作利用面積約 100 坪、内部高 2.3m 程度）で納入可能です。農作物収益除いて、本年度の固定買取価格制度の営農型太陽光発電による買取（12 円/KWh）を利用した場合は約 20 年での回収を見込むことが可能です。

・潮来市ソーラーシェアリング発電所について

2018 年 12 月より稼働。潮来市内で従来のイネ苗での収穫を前年実証済み。

今回は種からアグリハウス PV で育成された米作に協力。

【収穫の様子について】

youtube にて動画で公開しております。

<https://youtu.be/IxLoqdwELng>

本 PDF と共に弊社ブログも公開しております。

<https://taiyoukoudenekenkin.seesaa.net/article/483374000.html?1631493860>

以上です。

【2021. 9. 10 収穫】







【潮来市ソーラーシェアリング発電所】



【アグリハウスフレーム PV】



【本フレームにビニールハウス機能を付加したもの】



【本年度イネ苗試作の結果：目黒様提供】



ソーラーシェアリング発電所および、アグリハウスフレーム PV の設備は、弊社太陽光発電設備設計施工販売会社の有限会社 赤嶺電研企画（茨城県鹿嶋市 0299-69-7909）が、設計・設置施工・管理を行いました。

今後 様々な形での営農型発電所の設置推進とその活用ご提案により、

- 再生可能エネルギーによる電力供給
- 日本の脱炭素社会への推進

さらには、地域農業営農者様との連携により、

- 農業従事者への安定収入確保の一助
- 農村部への再エネ普及の第一歩
- 農業への再エネ電化導入への呼び水
- クリーン電力供給など地域社会貢献

を行い、地球に優しい企業であることを目指します。

＜本件に関するお問い合わせ＞

広報担当者名：有限会社 赤嶺電研企画 赤嶺

TEL：0299-69-7909 FAX：0299-69-7909 E-mail：aakamine@akaminedenken.jp